

<議事要旨>

(1) 開会

◇大阪府 雇用推進室長 道籬 佳久

- ・人材を必要としている業界である、製造業、運輸業及び建設業の人材確保をめざし、業界団体をはじめ、ここにお集まりいただいた皆様と連携して「大阪人材確保推進会議」が発足した。
- ・来年度に向けて、業界のイメージアップ・環境改善に繋げるために積極的に意見交換ができればと思っている。

(2) 第1四半期の取組み状況及び今後の予定について

各団体より標記について資料に基づき説明後、意見交換。

<業界団体からの主な発言>

大阪建設業協会：

建設業の科目を専攻している高校生のうち、4割程度しか建設業界へ就職しないのが現状。また、就職後の離職率も高い。企業と高校生のミスマッチをなくすことが課題。

労政課：

高校生の定着率について、生徒・先生へ企業の魅力をアピールしなければならない中、高校生が就職するにあたり様々な制約や制限があるとのことだが、具体的にはどのようなものか。

大阪建設業協会：

高校生は、原則ハローワークを通じてのみその会社を知ることができる。また、7-8月の間で就職活動をしなければならない。先生も求人票1枚だけではどういう企業かすすめることもできない。

大阪住宅安全衛生協議会：

ミスマッチを防ぐために、住安協として過去取組んでいたことがある。学校側が生徒の適性を見て選抜し、雇う側は丁寧な対応ができる企業とマッチングさせた。

「とりあえず就職させる、とりあえず人がいないから雇う」のではないように取組むことが成功に繋がった。併せて、求職者への業界イメージアップも大切だが、求職者に対してきっちりと業界の話ができる方（先生）を養成しなければ、恒久的な取組みとしてミスマッチを防ぐことは難しい。

教育庁：

学校では、先生から「この業界に行きなさい」ということは基本的にできない。
生徒の希望が第一優先である。その段階で建設業界を志望するケースは少ない。
教育現場も若い先生が増えている。業界団体からも学校を回ってアピールしてもらう方が良い。ただ、教育庁から特定の会社や業界だけの紹介はできない。
現在は、校長会を通じて、各現場へ落とすやり方を取っている。

大阪府建団連：

大阪府建団連では、7年前から雇用推進事業の取組みとして、雇用推進研究会を組織し、
現在では会員企業 80～100 社と工科高校の先生と意見交換会を実施している。意見交換会の中で、実際の仕事に触れる機会が欲しいという意見から、技フェスタを開催している。

建築振興課：

建設業界への就職者を増やすためには、工科高校を目指してもらうような中学生に目を向けた広報、建設業界へ志向を向ける仕組みづくりが必要なのでは？

大阪府建団連：

今回の技フェスタを知っていただくために、鶴見区の中学校の校長会の先生方に協力していただき、パンフレットの配布をしてもらった。

近畿地方整備局：

建設業の離職率は全産業が 36%に対して、40%と高くなっている。
ミスマッチの一つの原因として、「見て覚えろ」という体質が合わない学生が増えている。
業界団体への広報協力は可能。

大阪労働局：

労働局から求職者に対して、業界の魅力を発信していく広報協力は可能。

(3) OSAKA しごとフィールドに設置する魅力発信ブースについて（説明：事務局）

- ・ OSAKA しごとフィールド 2階に、製造・運輸・建設業界の魅力を発信するブースを作成する。
- ・ 求職者に情報着信するという観点から、ビジュアル面を重視したブースにするため、企業の若手従業員へインタビューを行い、それをパネル化して展示する。
- ・ 現在、運輸業界のみ完成しており、8月中に建設業も完成予定。

(4) その他（説明：事務局）

- ・次回の大阪人材確保推進会議は来年5月を予定している。